

# 視聴覚教育

NO. 413  
発行日  
27. 6. 30

発行  
岡崎市 A V L  
編集  
現職研修委員会  
学習情報部

## これ知ってる!?

「短焦点プロジェクト」  
至近距離から投写でき、取り  
るプリンター間の近距離でも  
め、教室内に設置できる。ま  
ら、ず、学校に導入すれば、  
中機種の連続利用が可能。

## 視聴覚教育あれこれ

### ●第11回「育て！プリントコミュニケーション」

#### コンクールの結果

第11回「育て！プリントコミュニケーション」コンクール（主催・理想教育財団）に今年も市内の先生方がたくさん応募されました。入賞、入選されたのは次の方々です。おめでとうございます。

## ネット依存調査から思うこと

学習情報指導員 北野小学校 内田 雅之

小学生2.7%、中学生7.6%…。これらは、平成25年度に総務省が実施した「青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査」における、ネット依存傾向の高い者の割合である。昨年度、岡崎市でも小中学生を対象にネット依存調査を行った。「ネットを通して新しく知り合いを作る」とがある」という質問に対し「いつもある」「よくある」と答えた者の割合が、小学生で6.4%、中学生では10.2%に上る。人間関係の構築を、SNSなどのネットワークサービスに依存している子供が少なからず存在するのだ。この現状に対し、我々は何をしなければならぬのだろうか。

東京大学大学院の橋本教授は、日本の若者のネット依存傾向を「ぎすぎすな依存」と表現する。仲間との「ぎすぎす」を保ち、仲間外れにならないためにケータイやスマホに依存し、没入する。そしてついには、ネットの世界でのやり取りこそが、人間関係の中心となっていくのだ。であれば、我々がすべきことは、現代の子供たちにネットワーク利用に対する正しい知識を与え、ネットに依存せずとも生活できる力を身に付けさせることになる。そのために必要なのは、まず、情報モラル教育

の中で「ネット依存」に関わる内容について、道徳や特別活動だけでなく、より多面的なアプローチをすることだ。例えば、保健の授業において「ネット依存」が与える精神的・身体的影響を正しく教えることは、子供がネット依存の影響を「自分事」として捉えることに寄与する。

加えて必要なのは、対人コミュニケーションの能力を育てられる活動の場を創り出すことだ。その一手として考えられるのが、協働的な学習を通して、コミュニケーション能力の育成だ。協働的な学習において、答えや解決法を見つけた課題に取り組み中で、子供たちは互いの考えを伝え合い、すり合わせ、自分たちなりの答えを考え出す。その経験を通して、子供たちのコミュニケーション能力を向上させるとともに、肉声でのコミュニケーションのよさを実感させることができるのである。タブレット端末をはじめとする各種ICT機器は、そのような活動を実現できる手段として有効であろう。「ネット依存」というと、我々は安易に家庭の責任にしがちだ。しかし、学校教育だからこそ、できることが必ずあるはずだ。ぜひ、このような強い思いをもって、今年度の情報モラル教育に取り組みでいただきたい。

## 【ひろば賞】

浅井 優子（三島小）

## 【佳作】

藤田 宏（恵田小）

## ●パナソニック教育財団による実践研究助成

「実践研究助成」は、視聴覚・情報通信メディアを効果的に活用し、教育課題の改善に取り組み実践的な研究計画について助成されるものです。今年度の岡崎市における実践研究助成先は次のとおりです。

### 第41回（平成27年度）実践研究助成校

#### 【一般】

羽根小学校

児童のコミュニケーション能力の育成

学びの連続性を生かしたタブレットPCの活用

#### 【一般】

額田中学校

確かな日常で、心豊かな生徒の育成

ICT機器の活用による、追究する力・関わり合う力・表現する力の育成



## II 実践報告 II

### ネットコミュニケーションの恐ろしさ

三島小学校 丸尾 健太

「事例で学ぶNetモラル」と「キューブキッズ4」を利用して、小学六年生に対して情報モラル教育の実践を行った。

児童に「インターネットを使って、友達とメールやチャットを利用したことがありますか」と聞いたところ、クラスの半数が利用したことがあるという結果となった。そこで、「チャットに夢中にならない」という教材を使い、お互いの表情が見えないことからトラブルになる事例を確認した。しかし、それだけではインターネットの怖さを感じられない様子であったので、キューブキッズの機能の一つ「チャット」を使い、自分の名前を明かさずに疑似体験をさせた。

初めのうちは、どんなメッセージが出てくることを楽しいと感じた子供が多かった。しかし、担任がわざと「○○のこと、うざいよね」と不適切な書き込みをすると「だれ?」「なんか怖い」などと子供たちの様子が変わった。体験を終えた子供たちからは、「何のルールもないように感じた。何でも書いていいと思っていると、変な事件にまきこまれる」という感想が出た。

子供たちは、この実践を通して、インターネット上でトラブルに巻き込まれないようにするために、自分自身で冷静に判断し、行動できるようにならなければならないことを学ぶことができた。社会の情報化が進む中で、子供たちが正しい知識をもって判断ができるようにするため、これからも継続して情報モラルの実践を進めていきたい。



## II レッツ・トライ II

### 「タブレット端末を活用するための環境整備」

市内全中学校にタブレット端末が整備された。より一層の活用促進をめざし、「誰でも、すぐに、気軽に」使えるようにしたい。以下に私の勤務校での取組を紹介する。

①各学年に情報担当を置く  
各学年に情報関係の核となる教員を置き、気軽に相談できるようにすることで、活用が進むようにしている。授業の空きがあれば、機器操作の支援として積極的に授業に参加をし、手助けも行っている。また、定期的に各学年の情報担当が情報交換をしている。解決できないときは、ISA・OKを活用し、できるだけ早く解決できるようにしている。

②場所の確保や黒板の活用  
職員室内のよく見えるところに、PC教室やタブレット端末の利用黒板を設置し、使用状況がすぐにわかるようにしている。それにより、計画的な利用ができるようになっていく。また、タブレット端末の保管庫の前は広くスペースを取り、端末の出し入れ作業がしやすいようにしている。

③使ってみてよさを伝える  
まずは使ってみて、そのよさを効果を学年や教科部会の中で伝えることで、使ってみようとする気持ちが生まれてくる。タブレット端末に限らず、情報機器の活用を進めるためには、使いやすくなることも重要である。



(六ツ美中学校 学習情報主任 三輪恭之)

## ライブブラリーだよ

### ●平成27年度「親子映画会」のお知らせ

〈上映日と会場〉

- ・ 7月19日(日)  
矢作市民センター・大平市民センター
- ・ 7月26日(日)  
東部市民センター・中央市民センター
- ・ 8月2日(日)  
南部市民センター(シビックセンター内)  
ぬかた会館
- ・ 8月23日(日)  
岩津市民センター・六ツ美市民センター

〈上映時間〉

- ・ 午前の部 10時～11時30分
- ・ 午後の部 13時30分～15時

〈主な上映映画〉

- ・ ミッキーマウスのメリークリスマス
  - ・ ちびまる子ちゃん(先生の家に遊びに行こう)
- ※各会場で三作品を上映します。

### ●「親子ビデオ上映会」のお知らせ

〈上映日と会場〉 8月30日(日)

〈上映時間〉

- 中央市民センター  
午前の部 10時～11時30分
- 午後の部 13時30分～15時

〈主な上映映画〉

- ASTRO BOY 鉄腕アトム
- ※三作品を上映します。

### ●「ビデオ講習会」のお知らせ

〈日時〉 7月25日(土) 9時～16時30分

〈場所〉 福祉会館6F

〈内容〉 初級 ビデオカメラでの撮影と編集  
中級 持ち込み素材での編集

※詳しくは岡崎市視聴覚ライブラリーまで